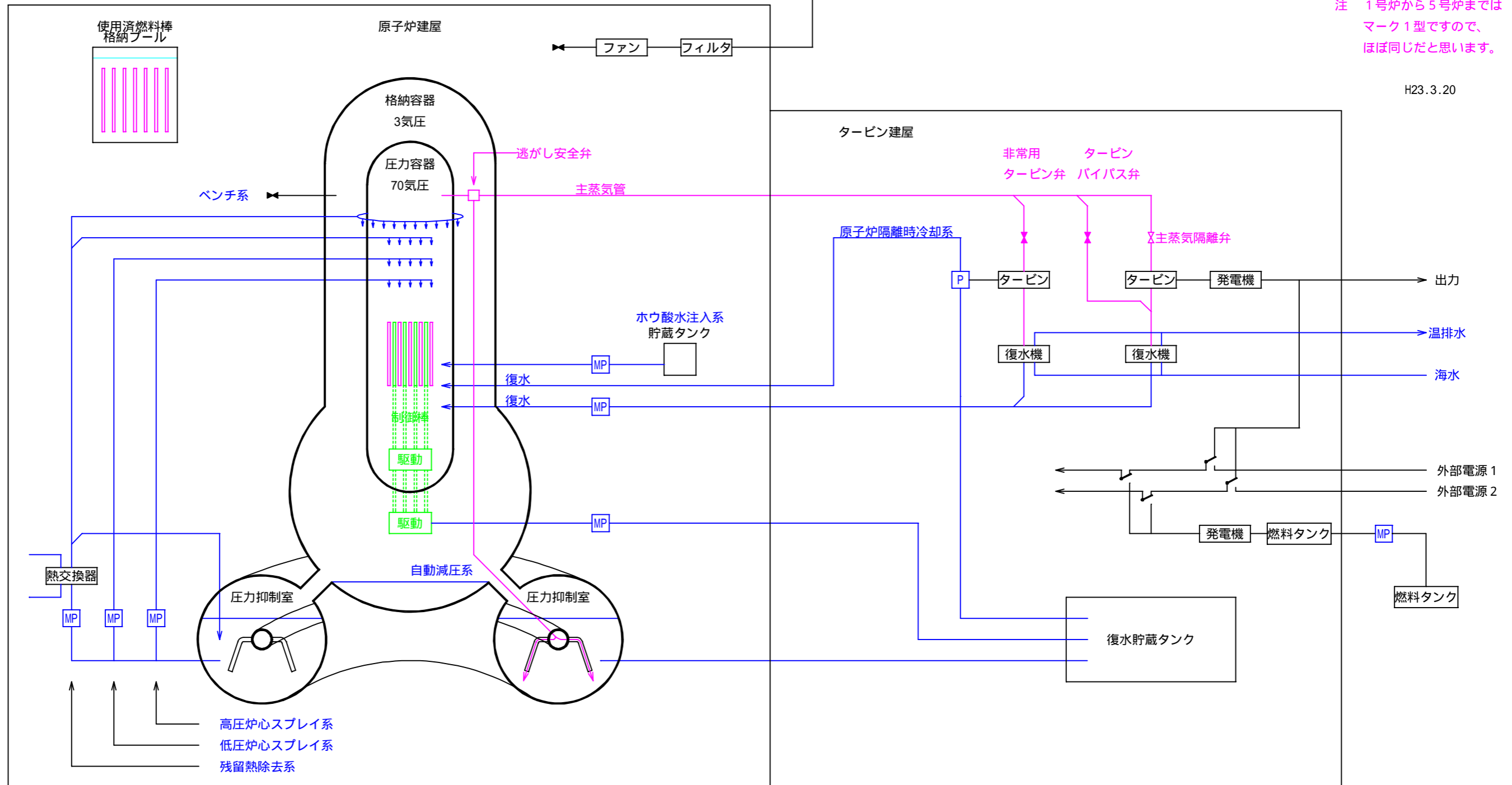


注 1号炉から5号炉までは  
マーク1型ですので、  
ほぼ同じだと思います。

H23.3.20



非常時の動作

制御棒が挿入され、  
臨界状態が止まる。  
タービンバイパス弁が開き、  
蒸気がバイパスされる。  
主蒸気隔離弁が閉まり、  
主タービンが止まる。  
非常用タービン弁が開き、  
炉心への注水が始まる。  
その他の装置は、  
センサーにより起動される。

各冷却系の概要

原子炉隔離時冷却系

压力容器に給水し、  
压力容器の温度と圧力を下げます。  
廃熱を利用したタービンで駆動しますので、  
電源は必要ありません。  
常に待機状態におかれており、  
主蒸気隔離弁動作により、  
30秒以内に定格運転を開始します。

高圧炉心スプレー系

高圧の状態では  
燃料棒に水をスプレーし  
燃料棒の温度を下げると共に  
压力容器内の圧力を下げます。

低圧炉心スプレー系

高圧の状態を脱した後、  
同様の役目を果たします。

残留熱除去系

低温低圧の安定状態になった後も  
原子分裂による熱は出続けるため、  
低温状態を維持します。

ホウ酸水注入系

ホウ酸を溶かした水を注入し、  
中性子を吸入することにより、  
核分裂を抑えます。

自動減圧系

主蒸気管の逃がし安全弁から  
蒸気を圧力抑制室に逃がし、  
压力容器内の圧力を下げます。

ベンチ系

格納容器内の圧力が高くなった時、  
空気を逃がして圧力を下げます。